日本生殖看護学会ニュースレター

No.22

Japanese Society of Fertility Nursing（JSFN）

・・・目　次・・・

・受精卵の移植における医療過誤を考える …… 1
・第７回日本生殖看護学会学術集会のご案内 …… 2
・第６回日本生殖看護学会学術集会　事例検討会報告(2) …… 3
・理事会報告 …… 3
・各地区で開催された勉強会報告 …… 4
・各地区で開催する勉強会の支援 …… 5
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿　No. 5 …… 5
・平成21年度研究助成のお知らせ …… 6
・もし不妊看護の現場で行き詰まったら …… 7
・不妊看護に関するQ&A …… 7
・掲示板 …… 8
・事務局からのお知らせ …… 8
・編集後記 …… 8

受精卵の移植における医療過誤を考える

日本生殖看護学会　理事長　森　明子

先日、受精卵の移植の取り違えの可能性という生殖補助医療ゆえに起こりうる問題が香川県立中央病院で発生したことが公表されました。この事故が公表されたのは２月中旬でしたが、実際は昨年の秋に発生していました。悲しいことに、妊娠していた女性が担当医から取り違えた可能性について告げられ、人工妊娠中絶の選択を余儀なくされました。取り違えた可能性という、あいまいな状況下で、妊娠した女性カップルと、自分たちのものかもしれない受精卵で他人が妊娠したカップルの苦悩は計り知れません。日本では、私たち看護職は、直接、配偶子や受精卵を操作したり、移植することはありません。しかし、生殖医療チームの一員として、このような事故に関わりうる日常を過ごしていることを自覚しなければなりません。とくに日本ではマンパワーや設備面でも規模の小さな医療施設が多く（大病院であっても生殖補助医療に関しては同様です）、他人事ではないと感じた医療者は決して少なくないと思われます。

まずは、この問題の複雑さをよく理解する必要があります。そして次号では、事故防止やリスクマネジメントについて看護職としてすべきことを皆さんと一緒に考えてみたいと思います。ぜひ、皆さんもご意見を広報委員会までお寄せください。お待ちしています。

関連学会等の情報をご参照ください。

○日本産科婦人科学会　http://www.jsog.or.jp/statement/statement_090228.html
○東京財団　http://www.tkfd.or.jp/research/news.php?id=409
○東京大学グローバルCOE「次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点創成」事務局　Policy Issues
http://square.umin.ac.jp/CBEL/data/quickresponse/policy01_20090227.pdf

第７回日本生殖看護学会学術集会のご案内

－文化の視点から生殖看護を考える－

2009. 9.13（Sun） in 三重県立看護大学

本学術集会が開催される三重県は、医療施設が充実し交通の利便性が高い都市部をもつ半面、小説“潮騒”で有名な『神島』に代表される多くの離島や、『熊野古道』といった山間部などの多くのへき地を抱えています。人口密度が低く、交通アクセスの困難さが存在する「ルーラル地域」では独自の文化が育まれ、そこに足を踏み入れると、都市部とは異なる時の流れや人と人とのつながりがあります。生殖についても地域がもつ文化の視点からとらえることが不可欠であり、そこには子どもをもつことに関する地域の意識や慣習など様々なものがみえてきます。今回の学術集会では、文化は生殖に、そして生殖は文化に何をもたらしているのか、そして求められる生殖看護について考えてみたいと思います。

▽プログラム

9：15～9：25	オリエンテーション
9：25～9：55	会長講演「ルーラル地域における生殖医療従事者の役割とネットワーク」 三重県立看護大学　村本　淳子
9：55～11：25	一般演題（口演）
11：40～12：35	事例検討会【会員対象】 昼食
12：45～13：15	総　会
13：25～14：25	一般演題（口演）
14：35～15：15	特別講演「生殖医療と身体－文化とテクノロジーのはざまで－」 明治学院大学社会学部社会学科　柘植　あづみ
15：15～16：00	一般演題（ポスター） ティーブレイク
16：00～17：30	シンポジウム「ルーラル地域における文化と生殖看護」 シンポジスト　鳥羽市立神島診療所　奥野　正孝 助産院フラウエンハウス加來　加來　久美 東北大学病院婦人科外来　髙橋　恵美子

▽参加申込み方法

郵便振込にてお手続き下さい。事前申込みは**８月21日㈮**までです。

▽一般演題・ポスターのお申込み方法

申込みはメールでのエントリーとします。**演題申込みは４月24日必着、演題抄録締切は５月22日必着です。**なお、用紙はHPからダウンロードできます。

▽事例検討会のお申し込み方法

申込みはメールでのエントリーとします。検討事例の申込みは**４月24日必着**です。なお、用紙はHPからダウンロードできます。

▽宿泊について

会期が第29回世界新体操選手権（伊勢市にて開催）と重なるため、宿泊困難が予想されます。数軒のホテルを確保しております。HPをご参照下さい。

※詳細は、別途送付いたしました学会のご案内をご参照下さい。

▽お問い合わせ先

第７回日本生殖看護学会学術集会事務局（担当：崎山　貴代）
〒514-0116　三重県津市夢が丘１丁目１－１　三重県立看護大学内
Fax：059-233-5616　E-mail：jsfn7th@mcn.ac.jp　HP：http://www.mcn.ac.jp/jsfn7th/

第６回日本生殖看護学会学術集会 事例検討会報告(2)

報告者：神戸大学医学部附属病院　山下　直美
兵庫医科大学病院　松本　豊美

【テーマ】治療終結を選択できない事例－事例を振り返り日々の実践への解決策を導く－

【事例紹介】

患者は40歳代。夫は数年前より単身赴任中であり、患者一人で治療に通っている。小学生の長男と二人暮らし（学習障害あり）。産科歴は、経膣分娩１回（早産）、流産３回、IUFD １回。不妊治療を始めてから、AIH を32回実施し、昨年から ICSI を開始した。患者は、「流産した子を取り戻したい」「苦しい妊娠経過しか記憶にない。楽しい妊娠経過を経験したい」と話す。医師からの「治療終結」への選択肢が伝えられるが、「排卵する限り治療したい」という思いが強い。

【ディスカッション内容】

①看護者は、患者の「排卵する限り治療したい」という思いを支援するという姿勢で良いものだろうか
②今後必要な看護支援は何か、という２点を中心に話し合いを持った。

＜事例の問題点＞流産の際の悲嘆作業が十分に行われていないことが考えられ、その影響もあるのではないか。夫が単身赴任中であり、夫の思いや理解度がわからない。夫婦揃った状態での情報提供がなされていないので、夫婦の思いが共通しているのか、すれ違っているのかがわからない。

＜患者へのアプローチについて＞長期に渡る治療であったため、自分自身の人生を振り返り、気持ちの整理を行っていくことが必要ではないか？という意見が聞かれた。具体的な気持ちの整理の方法としては、「あなたにとって、不妊治療とは？家族とは？」というような質問形式のアンケートを用い、自分の気持ちを文章化していく方法などが紹介された。また、治療終結した方の実際の経験を共有できる場を作る、お金と時間に対して、ある一定のラインを持つことを提案する、という施設もあった。

【まとめ】

この事例検討会には30名近い参加があった。他施設でも同様に、治療終結が選択できない事例を経験していることから活発な意見交換があった。施設間での情報交換がなされたことは大きな学びになったのではないかと考える。また、患者に対するアプローチの方法については、患者の治療経過や個別性もあるため、統一した見解までは見いだすことはできなかったが、長期に渡る治療であったからこそ、本人が治療終結を選択する過程を看護者は支えること、患者を「孤独にしない」ことが大切であると学ぶことが出来た。

理事会報告

第３回理事会報告(書面)

日　時：2008年11月27日(木)　【審議事項】　メディカルオンラインへの学会誌の掲載について

第４回理事会報告

日　時：2008年12月20日(土) 18:00～19:30　場　所：聖路加看護大学２号館５階ミーティングルーム
出席理事：森明、有森、遠藤、小川、岸田、清水、長岡、野澤、福田、村本

【報告事項】

1．各委員会報告
　1）実践開発委員会：事例に関する相談メール１件あり。
　2）看保連対応 WG：生殖医療領域における看護技術料について動向をみていく。
2．その他
　1）第７回生殖看護学会学術集会 経過報告
　　特別講演の講師が柘植あづみ先生に決定。シンポジストを検討中。

【審議事項】

1．入会審査：５名の新規入会を承認
2．実践開発委員会の今後の活動について
　教育機関と協力し認定看護師のスキルアップ研修を支援していく方針。実践開発委員が次回理事会までに各地域から実践開発委員会の幹事としてメンバーを選出する。
3．第８回生殖看護学会学術集会について　2010年９月、徳島にて開催の予定。

第５回理事会報告(書面)

日　時：2009年１月30日(金)
【審議事項】　入会審査：３名の新規入会を承認。　日本看護系学会協議会役員選挙における被選挙人の選定。

第6回九州地区勉強会報告

報告者：蔵本ウイメンズクリニック　久保島　美佳

テーマ「不妊と肥満」
日　時：2009年1月25日(日) 14：00～17：00　　参加者：41名
場　所：国家公務員共済組合連合会　浜の町病院研修講堂

＜事例紹介＞　A氏30代前半。診断名；PCOS. 不妊治療を始めた頃より体重が15kg増加。腹腔鏡下卵巣多孔形成術後よりIVF勧められるもARTには抵抗あり。OHSSにならないか、また、夫に迷惑がかかるのではないかという不安がある。主治医より減量を勧められるも体重が減らない。満腹感がなく食欲を抑えられない時がある。集中力がなく運動する気にもなれない。このような患者に対しどのように対処すればよいか。

＜講演1＞「"シンドロームＸＸ" メタボリックシンドロームとしてのPCOS」
熊本大学大学院医学薬学研究部産科学分野　医学博士　　大場　隆先生

PCOSの内分泌動態は高アンドロゲン状態であり、不妊症以外にインスリン抵抗性、心血管イベントのリスク等が引き起こされる。PCOSは不妊症だけの問題ではなく、女性の一生を左右するものでありもっと幅広く見ていかなければならない。

＜講演2＞「肥満とストレス」～わかっちゃいるけどやせられないメカニズム～
ウエルネスサポート研究所(財)健康・体力づくり事業財団　健康運動指導士　　八木　香里先生

ストレスレベルが高まると、精神症状（気になる、落ち込むなど）、身体症状（偏頭痛、肩こりなど）、行動症状（間食、アルコール、たばこなど）が現れる。ストレスをコントロールしダイエットの成功を目指すには、動機づけ（内的・外的・肯定的・否定的等）が必要である。ネガティブな気持ちからポジティブな気持ちにすることがポイント。

＜質疑応答＞　PCOSは女性の一生に関わるので専門医への受診が大切。どのような連携をとっていけばよいかという質問に対し、「地域での情報交換や勉強会などを通じて、近くにも専門家がいることがわかる。」「紹介を密にしていると、紹介先の医師も不妊症の方への対応が上手になる」等の意見があった。PCOSの肥満者のほとんどは、痩せなければいけないと自覚しているが、不妊というストレスを抱えたままであれば、意欲はあるが完全にはできないというのが現状である。そのような人には単なる栄養指導よりは、精神的なサポートも含めた専門的なアプローチが必要である。

＜今後勉強会で取り上げて欲しいテーマ＞
・不妊治療後の妊婦への看護　　・甲状腺機能低下症と不妊　　・PCOSへの分子標的治療　など

関西地区勉強会報告

報告者：兵庫医科大学病院　　松本　豊美
足立病院　　上田　聡代

テーマ「遺伝カウンセリングと不妊看護」　　講　師：認定遺伝カウンセラー　佐藤　有希子
日　時：2009年1月31日(土) 14：00～17：00　　参加者：26名
場　所：兵庫医科大学病院　会議室

＜勉強会の概要＞　遺伝カウンセラーの実際を知り、看護の現場で看護師としての支援に活用する目的で60分間の講演を聞いた。その後「実践していく具体的支援」を明らかにする視点で事例検討を行った。

＜事例紹介＞　ART（ICSI）へのステップアップを考えているが、染色体異常の不安が強く、悩んでいる。患者自身の思いの中ではパーフェクトベビーを希望する発言が聞かれる事例。

＜グループワーク（検討内容の概要）＞
1）思いを知る、情報収集：「治療への理解度」「夫の治療や挙児希望への思い」「遺伝的知識の内容」
「染色体異常に対しての思い」
「カウンセリングスキルを学ぶ事が大切（情報収集に重要）」
2）情報提供：「高齢出産と染色体異常の関係」「出生前検査やART児への影響」「自助グループの紹介」
「出生前診断（クワトロテスト・羊水検査）」
3）看護介入：「必要時専門的カウンセラーを紹介する」「遺伝カウンセラー、心理カウンセラーとの連携」
「気軽に相談できる場所の確保」

＜勉強会を終えての評価＞
1）アンケート結果：「不妊看護で、遺伝的看護介入の役割が理解できた　26名」
「考える機会になった　26名」「具体的な行動が見いだせた　26名」
2）参加者の感想や要望：「他職種に紹介するだけでなく、私たちが理解した上で紹介することが大切」
「遺伝に関しての理解を、不妊医療に携わる私たちが意識して取り組みたい」
「傾聴・情報提供などの大切さを再認識した」「定期的に勉強会を開催してほしい」
「関西では遺伝カウンセラー２名であり、連携の大切さを感じた」
「他施設の方との意見交換が有意義だった」
3）今後取り上げて欲しいテーマ：「里親や養子縁組について」「AID について」
「事例検討会」「何でもいい学びたい」

＜その他＞　不妊治療、高齢妊娠、反復流産、染色体異常、などの不安を多く持つ事例に、日々理解を深められないまま関わっていたことを再認識した。講義と事例検討で、不安な思いを聞く、情報を集める看護者の姿勢が大切であることを再認識できた。今後も、参加者主体の勉強会を定期的に開催したい。

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス）等を以下の連絡先までご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。

教育推進委員会担当理事　森　恵美

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

教育推進委員会担当理事
森　恵美　mori@faculty.chiba-u.jp
千葉大学看護学部　母性看護学教育研究分野
〒260-8672　千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL：043-226-2410,　FAX：043-226-2414

不妊症看護認定看護師 リレー寄稿 No. 5

「夫婦で支えあう不妊治療」

高知県厚生農業協同組合連合会　JA 高知病院
高知女子大学看護学研究科　修士課程　関　正節

県の健康づくり課の呼びかけで、不妊セミナーを企画し、好評であったため継続して開催することになり２回目のセミナーでの出来事でした。ミニ講座と称して治療や食生活などあらゆる疑問にお答えするコーナーの後、夫婦で参加されていたご主人が交流会で話された一言が参加者皆さんの心に温かい風をふっと流してくださった体験をお話します。奥さんは勿論、他の参加者の方たちも笑い泣きをしていました。奥さんとの会話の掛け合いがおかしかったのもありますが、お二人の気持ちが通じた一瞬を感じたからではないでしょうか。ご主人は「僕は自分の性格かもしれませんが、今回の周期で妊娠しなかったのはもうどう考えてもだめなんだから、次はどうするかを先生に詳しく聞きたいです。」と話されました。すると奥さんは、「私は、だめだったってことが辛いのに、あなたはすぐに次のこと先生に聞くばっかりで、しんどいことわかってくれてないから…。」と少し涙ぐんでいました。ご主人は、「あっ、そうなの…」と今、気がついたという感じで何の悪気もない感じでした。奥さんは、「もう…」と少し拗ねた様に、多くの言葉を返しませんでした。そのうちくすくすと笑い始めた奥さんの目にはうっすらと涙がにじんでいました。周りもくすくす…ともらい笑い泣き。ご主人は照れ臭そうにしながらも申し訳なさそうでした。お互いの気持ちをオープンに伝えあうことは難しく、もしかすると他の参加者も不妊治療を行いながら夫婦でお互いの気持ちを暗中模索していることに気づき、ある意味少しほっとしたのかもしれません。

不妊治療を受けているカップルの相談を何度か受けてきて、私自身もどのように対応すればよいのか解らない時があります。対象者の辛さを知って支える援助を、皮膚に入り込むようにはなかなかできません。どんなに辛くても、治療を乗り越えていくのはカップル自身のつながり・絆・親密さによるものなのでしょう。私たちは、そのことをより理解している援助者でなければならないのでは、と改めて感じさせられる一場面でした。

私が、高知県で細々ながら認定看護師の活動をしているのは、同期の北村明子さんと共に、セミナーをしたり、いろいろな情報交換をしている事が刺激になっている事があります。次回のリレー寄稿を北村明子さんに、お願いしたいと思います。

平成21年度 研究助成を開始します

会員の皆様の活動支援の一つとして、研究助成制度を設けていますので是非ご活用下さい。
たくさんのご応募を心よりお待ち申し上げます。
なお、詳細につきましては学会ホームページ（http://jsin.umin.jp）をご参照下さい。

研究助成募集要項

【研究助成の趣旨】
生殖看護の実践に関する調査・研究を支援するために、会員を対象とし、研究費を助成し、生殖看護の発展を図ることを目的とする。

【助成の対象】
個人又は共同の研究者を対象とする。

【応募資格】
1．研究代表者は会員であって、会員歴２年以上である者。
2．共同研究者は、申請時に本学会会員である者。

【助成金】
研究助成金は研究計画一編につき５万円を限度とし、当該年度の研究助成は２件までとする。

【研究助成期間】
平成21年８月１日～平成22年７月31日までの１年間とする。

【応募方法】
1．学会所定の研究助成申請書に必要事項を記載し、13部（正１部、副12部）を学会事務局宛に「研究助成申請書類在中」と朱書きし、書留で送付する。申請書類は返却しない。
2．応募受付期間：平成21年４月１日～６月30日

【選考及び助成の決定】
研究助成審査会において選考審査の上、平成21年７月下旬に応募者に文書で通知する。選考に関する問い合わせには応じられない。

【助成金の使途】
研究活動に必要な物品費、旅費、通信・運搬費、印刷費などを含む。

【研究成果の報告】
1．助成を受けた者は、研究が終了後、その結果を理事長に報告する。
2．研究成果は、２年以内に日本生殖看護学会で発表し、さらに日本生殖看護学会誌に投稿する。
3．研究成果を他に発表する場合には、日本生殖看護学会の研究助成を受けたことを明記する。

日本生殖看護学会　将来検討委員
長岡　由紀子

もし不妊看護の現場で行き詰まったら…
日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろう？」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか？」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ（http://jsin.umin.jp/）からのみのアクセスとなります。

会員の皆様からのご相談をお待ちしています！　なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考になるものが多く含まれています。相談者の同意を頂いた上、相談後１年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、『不妊看護に関するＱ＆Ａ』として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1．事例の相談
2．生殖医療の知識的なことに関する相談
3．不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4．看護する場の改善（相談室開設など）にともなう相談　　など

◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

不妊看護に関するＱ＆Ａ

Q 初めて高度生殖補助医療を行った患者さんに継続して関わりました。以前は同じ地域の別のクリニックを受診していたそうですが、先生や看護婦さんの方言を聞かされるのにストレスを感じ「説明ぐらい標準語でしてほしかった」と、転院されたとのこと。今回はご自分のこともよく話し、リラックスして治療を受けていたようですが、この話を聞いて私自身、方言や言葉使いに過度に気を使ってしまいそうです。今後、どのように関わったら良いでしょうか。

A 以前かかっていたクリニックでは、医療者と患者さんとの間の隔たりを軽減させて親近感を示すために、方言で話すというようなかかわりになっていたのかもしれません。しかし、この方も方言だけで前医を嫌になったわけではなく、自分の思いを聞いてもらえていないという不安や“妊娠”という結果に結びつかないストレスがそちらに向けられているという事も考えられます。

看護者が説明をする時、患者さんが理解できているか？確認しながら話すことが大切です。しかし、ついつい理解して欲しいと思うあまり、相手のペースを考えずに一方的に話す時、それが方言であればいっそう聞きにくく受け入れられなくなってしまうかもしれません。

また私達は医療人・プロとして仕事をしています。業務中は患者さんの尊厳を守ってケアをするために、節度ある接し方というのが求められると思います。そういった意味では、やはり標準語を使用するのがよいのでしょう。

しかし、今回の治療中に継続して関わったことで、信頼関係を築きたいという想いは確実に伝わっていると思います。「私も方言が出るかもしれません。わかりにくかったら、いつでもおっしゃってくださいね。気をつけますから」と、笑顔で話せるといいかもしれません。対象者に正直に接することも、時には大切だと思います。

掲示板

不妊症看護認定看護師教育課程からのお知らせ

聖路加看護大学看護実践開発研究センター不妊症看護認定看護師教育課程では2009年２月28日、修了式が行われました。仕事をしながら９ヶ月間の学びを共にした第１期生15名が巣立っていきました。今後、５月の認定審査に挑みます。第２期生の募集は締め切りました。第３期生の募集は８月、入学試験は10月の予定です。
ホームページ http://rcdnp.slcn.ac.jp/nintei/

お役立ちサイトのご推薦

◆シェリングプラウ社のサイト；ファティリティー.jp
https://www.fertility.jp/medical/
生殖医療に関する国内外の情報、学会・セミナーのご案内、診療お役立ちツール等、多彩な情報が盛りだくさんです。会員登録することで、さらに詳しい学術情報を見ることができます。一度覗いてみてください。

事務局からのお知らせ

1．日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX：03-6226-6380 もしくは E-mail：jsin@slcn.ac.jp まで、お気軽にご連絡ください。
2．ニュースレターは郵送ではないので転送はされません。したがって、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡ください。
3．お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4．日本生殖看護学会ホームページ（http://jsin.umin.jp）を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

重要　会費の納入をお願いします

平成20年度会費（平成20年９月１日～平成21年８月31日の諸活動に伴う会費です）の納入をお願いいたします。また、平成21年４月に実施する役員選挙の選挙権は、平成21年３月末日までに会費を納入された会員がもつことができます。過年度分につきましても、ぜひ納入をお願い申し上げます。

編集後記

１月いぬ、２月逃げる、３月去るとはよく言ったもので、１月、２月はあっという間に終わってしまいました。そして、３月も終わりを告げようとしています。今年もこの時期、一緒に仕事をしていた人達が新たな人生へ向けて去っていきました。そして、間もなく、新しい人々を迎え、新たな１年がスタートします。年度末、生殖医療の信頼を覆す事件がありました。来年は、明るい話題を提供できるような１年になって欲しいものです。
今年の桜の開花は早いと聞いていますが、気象庁、日本気象協会、その他の天気予報、いずれも例年期待を裏切ってくれますよね。身近なお花見便りが最も信頼できるかもしれません。また、お花見の計画を立てましょう。
（広報委員：野澤美江子、塩沢直美、林はるみ、安成智子）

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing：JSFN

〒104-0044　東京都中央区明石町 10-1
聖路加看護大学内

TEL & FAX　03-6226-6380

E-mail　jsin@slcn.ac.jp

ホームページ　http://jsin.umin.jp/